

中国  
地方

あのまち

YAMAGUCHI

山口県

電気新聞  
地域版

角島大橋

このまち

防長路  
24秋

”最新グルメに  
映え“スポット  
魅力たっぷり

おいでませ！

CONTENTS

- 8 …… 山口の魅力―新ご当地グルメ  
6 …… 山口の魅力―観光スポットの紹介  
5 …… 本州最西端の電気を担う―中国電力ネットワーク山口NWC所長インタビュー  
4 …… 地域と共に歩む―山口NWCの地域活動など  
3 …… 安定した電気を届ける―山口NWC各事業所の取り組み  
2 …… 山口観光マップ





長州海鮮うにしゃぶ

山口県は現在、外国人観光客から多くの注目を集めている。米国のニューヨークタイムズ紙が発表した「2024年に行くべき52カ所」に日本国内で山口市だけが選ばれたからだ。15年に米CNNから「日本の最も美しい場所31」に選ばれた元乃隅神社を筆頭に、県内には瑠璃光寺五重塔や錦帯橋といった多くの人気観光スポットが集まっている。県観光連盟が新たなご当地グルメの開発にも挑戦。これまで以上に魅力あふれる山口県を紹介する。

豊かな食材が紡ぐ  
新たな味覚



長州海鮮まぶし



長州 海鮮まぶし  
長州 海鮮うにしゃぶ  
長州 チキンステーキ

**gourmet**

# 注目 山口県

## 世界が熱い視線



長州チキンステーキ

山口県は本州最西端に位置し、温暖な気候で歴史や文化が豊かな地域だ。穏やかな瀬戸内海と荒々しい日本海の双方に面しているのも特徴。フグやハモに加え、ケンサキイカやアマダイ、車エビといった海産物が豊富に獲れるため様々な海産物を堪能できる。

これら地場産の食材を用いて、新たなご当地グルメを開発するプロジェクトが進行している。山口県観光連盟が主体となり、県北部の萩市と長門市の宿や飲食店などが参画。5回のワークショップを開き、「長州海鮮まぶし」「長州海鮮うにしゃぶ」「長州チキンステーキ」の3品が2024年2月に誕生した。

このうち「長州海鮮まぶし」は萩市の5店舗で提供中。味変のできる「ひつまぶし」を参考とし、まずは地元の魚介をご飯にのせてそのまま食す。次に薬味を入れた味を楽しみ、最後に汁茶漬けも頂ける内容だ。

メニューは5店舗がそれぞれ考案。桶に装ったご飯に豪華な刺身や唐揚げを盛り付ける店舗があるほか、刺身としらす、天ぷらを一緒に盛り

### 美しい古地図で、町歩き

山口県には長州藩の絵図方らが作製した美しい古地図が豊富に残されている。県観光連盟は、これらの古地図を眺めながら町並みを楽しむイベントを2017年から行っている。

各地の古地図をリーフレット化し、地元のガイドに案内される形で散策。岩国や柳井、長府、厚狭、長島など地区ごとに約40種類のリーフレットを用意している。24年も9月に開始し、翌年3月まで実施する予定。参加費はコースごとに異なり、無料の場合もある。問い合わせは山口県観光連盟、083(924)0462。



リーフレット化した各地の古地図

付けるなど店舗ごとに工夫を凝らしている。

「長州海鮮うにしゃぶ」は萩市にある4軒で提供している。昆布出汁やカツオ出汁、タイ出汁にウニのペーストや味噌、醤油、にんにくなどを加えた宿ごとの特製ウニスープに魚介を入れたしゃぶしゃぶ鍋。殻付きのウニ刺も付いており、関西方面からの宿泊客から特に人気を博しているという。

「長州チキンステーキ」は長門市の飲食店などが開発した地元ブランド鶏の「長州どり」と「長州黒かしわ」を素材にしたチキンステーキ。もともと焼き鳥文化が盛んな地域だったが、新たな食べ方としてチキンステーキを考案。同市内にある6店舗と2軒の宿が提供している。

県観光連盟は今後、これら3種類の新ご当地グルメを県内他地域の飲食店などにも展開する方針。3種類の新ご当地グルメを全県に広めたい考えだ。

spot 1

## 瑠璃光寺五重塔(香山公園)

瑠璃光寺五重塔は日本三名塔のひとつに数えられる国宝。室町時代に長門・周防国(現・山口県)の守護だった24代大内弘世公が、京の都を模した街づくりを進めた山口の地で花開いた大内文化の最高傑作といわれている。

1時間半ほどで散策できる公園は桜や梅の名所。五重塔をはじめとした様々な史跡も点在し、毛利家の墓所も残っている。散策中は「うぐいす張りの石畳」で手をたたいたり、足を踏みならしたりするのがお

## 四季と親しむ五重塔



勧め。ウグイスの鳴き声をほうふつさせる美しい音色が聞こえてくる。紅葉シーズンをはじめとする四季折々の景色を楽しみつつ、歴史の流れを感じながら落ち着いた気分が楽しめる公園だ。

※瑠璃光寺五重塔は2026年3月まで改修中。公園の出入りは可能。

spot 2

## 角島大橋

山口県の北西部にある角島大橋は、本土と角島を結ぶ約1.8キロメートルの橋。無料で渡れる一般道の橋としては日本屈指の長さを誇っている。

それ以上に、テレビCMやドラマのロケ地にたびたび登場する絶景スポットとして有名だ。リゾート地のような白い砂浜とコバルトブルーの海が広がる絶景がSNSでも話題となり、瞬間に日本トップクラスの絶景ポイントとして紹介されるようになった。

青く美しい海を眺め海風を感じながら、サイクリングや散歩を楽しむ観光客も多い。特に真夏の晴天時には海の青色と道路の白色、島の緑色が描き出すコントラストが絶景。まさしく最高の「映えスポット」といえる。

## 最高の“映え”、ここに



# いま “ふく”の国”

### sightseeing spot



付き人力車も居るため、これらのサービスを受ければ萩の町をより詳しく知ることが可能。明治日本の産業革命遺産」の構成要素として世界遺産にも登録されている。

## 「行くべき」「美しい場所」

### 路に入れば、江戸情緒

spot 3

## 萩城下町

山口県北部で日本海に面する萩市には、分厚い白壁の重厚な武家屋敷と夏みかんが顔を出す土塀や鍵曲などの城下町が今でも残っている。高杉晋作公や木戸孝允公といった幕末から明治維新で活躍した偉人の生家も現存。その軌跡をたどることができるといえる。豊富な城下町だ。

町筋は碁盤目状に区画しており、古民家カフェや雑貨屋、史跡などが点在。楽しく散策できるエリアとなっている。着物をレンタルする店もあるため、身にまといながら町を歩けば江戸時代の気分が楽しめる。

ガイドウォークやガイド

### 豊富な魅力、ウェブで発信中です



山口県観光連盟専務理事 井上 康さん

山口県には多彩な歴史と伝統、日頃の疲れを癒す絶景、海の幸・山の幸の絶品グルメが詰まっています。

白い砂浜とコバルトブルーの海の絶景が広がる「角島大橋」、明治維

新の原動力となった志士たち縁の地である「萩城下町」、取扱量日本一の下関に代表される「ふぐ」といった魅力的なものが盛りだくさんです。

2024年1月には、米ニューヨークタイムズ紙の「2024年に行くべき52か所」の3番目に山口市が選出され、観光公害が少ないコンパクトシティである点や、現在令和の大改修中の「国宝 瑠璃光寺五重塔」、美肌の湯で知られる「湯田温泉」などが紹介されています。

また、26年の秋には、「JRと地元地域が一体となつて実施するデスティネーションキャンペーン(DC)」を9年ぶりに本県で開催する予定で、多くの観光客の方にお楽しみいただけるよう、イベントや新たな観光資源の開発など準備を進めています。

今回ご紹介する観光スポットやグルメ以外にも、山口県観光サイト「おいでませ山口へ」で、豊富な観光情報をご紹介しますので、ぜひチェックしてみてください。皆様のお越しをお待ちしています。

# 台風と

## 闘り

山口県は本州の最西端に位置するため、中国エリアの中で特に台風の影響を受けやすい。松永明生所長は台風襲来前に「気象情報などを参考にして要員をあらかじめ派遣するなど万全の対応を取っている」と話し、防災対策に余念がない。松永所長のインタビューを通して、県内のネットワークセンター(NWC)の安定供給の取り組みや地域貢献活動などについて紹介する。

本州最西端の地で、電気を担う

## 100年先も、届け続ける

中国電力ネットワーク  
執行役員  
山口ネットワークセンター所長  
松永 明生 さん

### 降雪も日照も

―受け持つエリアの特徴は。

「山口県は山陰地域と山陽地域の特徴を持ち合わせている。山陰は風が強く降雪もあり、山陽は日射量が多くて太陽光発電が盛ん。周南コンビナートが形成され自家発電を所有する事業者も多く、離島の見島も抱えている」

―中国地域の中で特に台風の影響を受けやすい地域でもある。

「本州の最西端にあるため台風の襲来を受けやすい。本社などから気象情報入手し、進路や風雨の予測を立て素早く県内各地の対応に乗り出している。特に日本海沖の見島には復旧要員として当社社員が常駐していないので、台風の接近前に要員を現地に派遣している。自治体や海上保安庁、海上自衛隊などの関係機関とも訓練などを通して連携を密にし、必要な要員や資機材の運搬を手伝ってもらっている」

「重要なのは当社社員一人一人の心持ち。良質で低廉な電気を安定的にお客さまにお届けするという我々の強い気持ちで100年後も続けていきたい」

―山口県はコンビナートもあり工場が多い地域。カーボンニュートラルに向けた動きも活発なのは。

「多くの工場が自家発電を所有している。石炭などの化石燃料を利用する発電プラントが多いので、カーボンニュートラル達成に向けて系統電

力に切り替えようとする動きもある。結果的に系統電力の需要が増えれば、それに見合う設備を形成しなければいけない」

―必要な設備を構築するために心がけていることは。

「電気を安定的に供給し続けるためにも、お客さまの動向をすみやかに把握し、ご要望をしっかりと聞き取っていきたい。そのため県の企業誘致担当部署の皆さまをお招きして見学会を開いた。山口県は企業誘致が盛ん。工場が建設されても送電線や鉄塔、変電設備などが整備されていないと電気をお届けできない。そのため実際に変電所をご視察いただき、これらの設備の必要性を説明した。同時に、これらの設備が完成するまで時間を要することをご理解いただき、企業誘致の際に役立ててもらいたい」

### 行動宣言でより安全に

―安定供給に向けて、地域の皆さんにメッセージを。

「電気をお届けするという事業は、かけがえのないもの。安全に業務を遂行するため2024年4月に山口NWC独自で『ヒューマンエラー防止のための行動宣言』を制定。現場に向かう前に社員が復唱し、常に安全な作業を徹底している。良質で低廉な電気を安定的にお届けするという強い使命感を抱き、諸先輩から受け継いだDNAを絶やすことなく後輩たちに引き継ぎたい」

## 送配電の仕事、魅力発信

宇部市は、中学2年生を対象とした地元企業の魅力を体験するイベント「みらいWalkers★UBE」を開いている。働くことの意義や地元就職したいとの意欲を高めるのが目的。これに賛同し、宇部NWCは2021年から出展している。

宇部NWCはブースに、間接活線工具「ホットスティック」やフルハーネス型墜落制止用器具、絶縁衣、高圧ゴム手袋、スマートメーターなどを展示した。

訪ねてきた多くの中学生に同NWCの社員が工具や器具の使い方や役割を説明し、送配電会社の仕事内容を体験してもらった。

そのほか、過去に中国地方で発生した災害に関するパネルも展示。配電設備の被災状況を紹介した。停電を早期に復旧するため、どのような体制で取り組んだのかについても説明。

災害復旧訓練にしっかりと取り組み、電気の安定供給を守るという中国電力ネットワークの使命感も伝えた。



▲ 宇部NWCの展示ブース



フルハーネス器具などを展示した ▶



中国電力ネットワーク株式会社

山口ネットワークセンター

## 市民総踊りに参加



▲ 山口NWCの有志60人が参加した

独特のメークで観衆を楽しませた ▶

「お殿様」と踊り、  
練り歩く

「おおうちのゝおとのさま」の音頭に合わせて企業や市民団体が優雅に踊る「山口祇園祭 市民総踊り」が7月24日、山口市の中心部にある商店街などで行われた。山口NWCからは有志60人が参加。中国電力グループとして総勢約100人の社員が整列し、「大内の殿様」の曲に合わせて踊りを披露した。湯田温泉の由来となった白キツネをほうふつさせるような独特のメークを施した社員もあり、多くの観衆を楽しませた。

当日は終業後の午後6時半に山口NWCの構内に参加者が集合。出陣式と記念撮影を行った後、

会場となる商店街へ練り出した。参加者は1カ月前から昼休みに練習を重ねた踊りを披露した。

市民総踊りは振付の中に、かつて山口の地を治めた守護大名・大内家の家紋である菱形を両手で形作るのが特徴の一つ。参加者は1時間半をかけて市中心部を練り歩いた。

まつりの事務局を務めた山口NWCの河村京子さんは「伝統ある行事に参加することで、地域の皆さんに楽しんでいただき、地域がにぎわうことがうれしい」と参加した理由を述べていた。

市民総踊りは毎年子供から大人までの幅広い世代が参加する夏の一大イベント。今回は過去最大となる31団体1550人が踊りを披露した。山口NWCは分社前の中国電力時代を含めて2014年から参加し祭りを盛り上げている。

山口祇園祭は600年近くの歴史を誇る。室町時代に守護大名・大内弘世公が山口で京都を模倣した町作りを進め、京都の祇園社(現・八坂神社)を市内に建立。その後、1459年に京都の祇園祭を取り入れた祭礼を行ったのが山口祇園祭の始まりと言われている。



▲ 中国電力グループとして総勢100人が参加

今では「山口天神祭」や「山口七夕ちょうちんまつり」と共に「山口三大祭り」と称されている。

山口ネットワークセンター

## 女性技術社員が交流会

企画課 担当副長  
有馬 ゆかりさん異業種と語り、  
悩み解消

電柱の足場ボルトは間隔が広く、足が届かず登りにくい。これらは現場で作業に取り組む小柄な女性に特有の悩みだ。男性社員に相談しても共感を得にくい。そこで山口NWCはNTTインフラネットやNTTフィールドテクノの2社と共同で、女性技術社員同士の意見交換会を開催した。

初回は2023年9月に、2回目は24年3月に開催。3社から計17人が参加した。初回のテーマは作業服や作業環境に加え、子育て関連制度といったライフサイクルについても取り上げた。参加した山口NWCの女性社員からは「女性技術社員が少ない環境だが、他社にも女性特有の悩みを共有できる存在ができたことが心強く安心した」と好評を博していた。

2回目はゼロ災害の実現に向けた取り組みがテーマ。自身が経験したヒヤリハット事例を伝え合い、対策などについて意見を交わした。参加した企画課の有馬ゆかり担当副長は「ともにインフラ企業であり作業も共通点が多く、工夫など取り入れたい」と意義を話す。お互いに気付きを得られたことも成果だった。NTTフィールドテクノはK

▶ NTT系女性社員に  
高所作業車について説明した

出席者全員でタッチアンドコールを行った ▶



Y(危険予知)活動をスマホのアプリで実施。アプリをタップすると、その情報が事業所に送信される仕組みだ。有馬担当副長は「ヒューマンエラーの防止に向けてICTをフル活用している」との印象を受けたとも話す。

一方のNTT系2社の女性技術社員は、山口NWCの社員が作業前に行うKYの「私たちは…する」という行動目標に注目した。「私たちは」を主語に据えることで、自分ごとになる。作業に携わる全ての人の合言葉となり、安全意識がさらに高まることが素晴らしいとの感想を得た。

異業種との意見交換会は悩みを共有できるほか、互いの取り組み方を学べるため有意義。有馬担当副長は意見交換会を「今後も継続し、さらなる業務改善への提言につなげたい」と意欲を見せている。

山口制御所

停電事故に備えて制御所システムで訓練



当直長  
寺尾 宏一さん

岩国地区を除く山口県全域の送変電設備を監視・制御する山口制御所は、3交替勤務で24時間365日休むことなく電気を届けている。

停電事故が発生した場合は、事故状況を短時間で把握し、迅速に復旧操作を行う必要がある。停電している送変電設備をどのように復旧していくか、当直長が方針を立てて当直員が操作する。

この停電事故時の復旧操作が迅速

訓練を重ねて  
早期復旧



▲ 停電事故に備えて制御所システムを用いて訓練を実施

制御所には通常運転しているシステムに加え、停電事故の復旧訓練などでも使用するシステムも備えており、この訓練用システムを利用し、事故箇所の特定と復旧操作に取り組む。様々な設備を操作し、関係各所に連絡して早期復旧を目指すのだ。

山口制御所の寺尾宏当直長は「停電事故からの早期復旧が我々の使命」と強調。そのためには「事故の情報を当直全員で共有し迅速な復旧操作・情報連絡が重要だ」と指摘し、「いつ自然災害が発生しても対応できるように訓練を積み重ねていく」と語った。

訓練に、  
設備維持に、  
奮闘

（山口県内のNWC、  
多彩な取り組み）

中国電力ネットワークは山口県内に7つのNWCを設置している。それぞれ災害復旧訓練や外部機関との合同訓練に取り組み、自然災害が起きても迅速に対応できる体制を整えている。離島への安定供給や最新工法を用いた工事など、山口県内の各NWCが取り組む最新の状況を紹介する。

下関ネットワークセンター・柳井ネットワークセンター

海保と合同訓練

下関NWCと柳井NWCはそれぞれ、海上保安庁との合同訓練に取り組んでいる。大規模災害が発生し陸路が寸断されたり、台風で船舶が運航できなかったりした場合に備え、海保の巡視艇で停電復旧に必要な資機材と要員の運搬が主な目的だ。

下関NWCは2024年6月、下関漁港と六連島で下関海上保安署との合同訓練に臨んだ。暴風雨により、離島の六連島で停電事故が発生したと想定。



海保艇で、停電復旧要員・  
資機材を運ぶ



▲ 大規模災害に備えて海保と合同訓練を実施

復旧要員と資機材を保安署の巡視艇で搬送した。要員の安全を確保しながら渡航できるかを検証し、資機材搬送の手順も確認。参加した社員は「船舶で搬送するため、配電線事故の復旧に必要な最小限の資機材を厳選するのに苦労した」との感想を話していた。

柳井NWCは23年8月、NTTも加えて柳井海上保安署と合同訓練を行った。台風によって定期航路もチャーター船も運航できないと想定。離島の停電を復旧するため柳井海上保安署の巡視艇に出港を要請し、復旧用資機材の積み込む順番や固定方法を確認した。

巡視艇に搬入できる資機材は限りがあるため、事前に船上で積載可能な物量を確認。資機材を厳選し、積み込みや固定化の方法について検討した。今後も柳井海上保安署と継続して訓練に取り組む方針だ。

山口ネットワークセンター善和事務所

送電線の断線復旧訓練



送電第二課  
技術・技能強化チーフ  
寺地 義明さん

台風によって倒れた樹木で送電線が断線したと想定。参加者は善和事務所にある2基の訓練用鉄塔で復旧作業に取りかかった。指差呼称で安全確認してから昇塔。鉄塔上部にある碍子から金具を外し、切れた電線を地上に降ろした。既存の電線に新しい電

断線復旧の能力向上

山口NWC善和事務所は、送電線の断線復旧訓練に取り組んでいる。6月の訓練では山口県内のNWCから20代を中心に10人の社員が参加。断線した電線を鉄塔から切り離し、新しい電線に接続したうえで鉄塔へ引き上げる作業を行った。断線を復旧する際の施工管理能力を高めることが目的だ。

線をつなぐため「圧縮形直線スリーブ」と呼ぶ筒状の器具を用意。まずは両電線の鋼線部分を同スリーブの鋼管に挿入して圧縮。その上からアルミ管を通して、さらに圧縮する。これで電線を接続して、手動式のウインチを用いて鉄塔へ引き上げた。

送電第二課の寺地義明 技術・技能強化チーフは「激甚化する災害から一刻も早く復旧できるよう、訓練を積み重ねて社員の能力を高めたい」と話していた。



▲ 送電線の断線復旧訓練に取り組んだ

中国電力ネットワーク株式会社

岩国ネットワークセンター

行政との連携で災害時に早期復旧

中国電力と山口県が2021年に締結した「災害時等における連携に関する基本協定」に基づき、岩国NWCと山口県岩国土木建築事務所は日頃から連絡を密にしている。この強固な関係が実際の災害時に大きな力となった。22年9月に発生した台風14号の影響で、中国山地の山間部が停電。現場に向かう道路は河川増水による通行止めなどで数日間通行できない状況となった。

道路状況、行政と共有



▲行政機関と情報共有し早期復旧に備える

早期の停電解消を目指す。指し、岩国NWCと岩国土木建築事務所は道路の被災状況などを共有。安全に現地へ到達できるルートを一緒に検討し、早期に現地での復旧に取り掛かり、送電を開始できた。配電課の清水健治担当副長は「いつ災害が発生しても迅速に連携できるように、今後も岩国土木建築事務所との強固な信頼関係を維持したい」と話し、日頃から連絡を取り合う意義を強調した。

山口ネットワークセンター

陸自との共同訓練

山間部などで大規模な土砂崩れが起きると陸路では現場に向かえない。それでも迅速な復旧作業を行うため、山口NWCは2024年3月に陸上自衛隊との共同訓練に初めて取り組んだ。陸自の輸送ヘリコプターにより復旧要員と資機材を運搬するといった内容だ。場所は陸自の山口駐屯地。まずは輸送ヘリで移動した視察要員が、被害状況を確認した。陸自の無線通信機で復旧作業に必要な資機材を連絡。連絡を受けて駐屯地では別の社員が資機材を準備。戻ってきた輸送ヘリに資機材と復旧要員を乗せ、再び搬送した。

陸自ヘリで、想定被災地へ

「資機材の積み込み方法に特に苦慮した」と振り返る。積み込む資機材の選択や順番に工夫が必要。また、飛行中の傾斜に対応できる固定方法など「いろいろと検証できた」と大きな成果を得られた。

無線通信の連絡は自衛隊員同士で行うため、「専門用語を使いすぎるとうまく伝達できない」とも把握。克服するため、資機材に関する伝言メモを作成し「実際の有事にも、訓練の経験を活かしたい」と抱負を語った。



配電広域復旧課 担当副長 津村 英俊さん



陸自ヘリで資機材を運搬 ▶

山口ネットワークセンター善和事務所

超高圧変電所の主要機器の取替工事



制御課 足立 彩希さん

県内最大級となる新山口変電所で制御装置と送電線保護装置の取替工事を進めている。工事を担当するのは入社6年目の足立彩希さんと7年目の沖原夏佳さん。足立さんは「新型の制御装置に取り替えるという大規模な工事を任せてもらい、大きなやりがいを感じている」と笑顔を見せる。取替工事の中でも、変電所の運転を止めるわけにはいかない。そのため電力需要の少ない秋や春に制御装置を構成する設備を徐々に旧型から新型に切り替えていく。制御装置は遠隔監視制御装置盤など23台の設備で構成。大規模な工事になるので、足立さんは「中央給電指令所や基幹給電制御所、本社などと情報を共有しながら取り組んでいる」と話す。電気を安定的に送り届けるために遠隔で系統の監視・制御を行う重要な装置なので「安全性を最優先に、工程を遅らせないよう、計画通りに工事を進めていきたい」と意欲を見せていた。



◀ 超高圧変電機器の取替工事に挑む足立さん(右)と沖原さん

機器の更新、若手が活躍

県内最大級となる新山口変電所で制御装置と送電線保護装置の取替工事を進めている。工事を担当するのは入社6年目の足立彩希さんと7年目の沖原夏佳さん。足立さんは「新型の制御装置に取り替えるという大規模な工事を任せてもらい、大きなやりがいを感じている」と笑顔を見せる。取替工事の中でも、変電所の運転を止めるわけにはいかない。そのため電力需要の少ない秋や春に制御装置を構成する設備を徐々に旧型から新型に切り替えていく。制御装置は遠隔監視制御装置盤など23台の設備で構成。大規模な工事になるので、足立さんは「中央給電指令所や基幹給電制御所、本社などと情報を共有しながら取り組んでいる」と話す。電気を安定的に送り届けるために遠隔で系統の監視・制御を行う重要な装置なので「安全性を最優先に、工程を遅らせないよう、計画通りに工事を進めていきたい」と意欲を見せていた。

萩ネットワークセンター

離島の安定供給

本土から電気を供給していない離島は、島内で独立した需給バランスを保つ必要がある。萩NWCは萩市から沖合45キロメートルにある見島(山口県萩市)も担当。変電課の全員が使命感と誇りを持って見島の安定供給に取り組んでいる。大規模な自然災害が発生すると、特に対応が難しくなる。例えば2020年7月には、50年に度と言われる豪雨で見島発電所に隣接する用水路が氾濫。地域一帯が浸水し、発電所の燃料移送ポンプ室にも水が入り込む恐れがあった。

離島の見島、設備強く



▲使命感を持って見島の安定供給へ

た。萩NWCの社員が協力し、燃料移送ポンプ室の扉付近に土のうを積み上げたことで浸水を免れた。発電機の燃料が途絶することなく、停電を回避できた。設備の適切な更新によって安定供給を続ける取り組みも行っている。稼働中の自動運転制御装置は設置してから28年が経過。故障した場合、発電機の運転に影響を及ぼすため、別の場所を進めている新制御室の建設に合わせて取り替えを行う予定だ。豪雨災害等に見舞われても対応できるようレジリエンスを強化する。

周南ネットワークセンター

変圧器の撤去工事

更新期を迎える変圧器が増えており、周南NWCは2023年5月から10月にかけて徳山変電所で変圧器の撤去工事を行った。特徴的な「ウォータージェット工法」と呼ぶ工法を採用したこと。超高圧水を使って変圧器の鉄製ふたを切断したのだ。変圧器の内部は絶縁油と、絶縁油がしみこんだ紙で満たされている。この油紙はコイルの周りに巻き付いている。鉄製ふたなどを切断する際は、電動工具や高圧ガスを用いるのが一般的。だが火気を用いるため、長時間にわたって火花が

高圧水を用いて、変圧器解体

油紙に当たると燃える危険性がある。その点、ウォータージェットの工法なら引火の恐れはない。水道水をポンプに送り込み超高圧水にしてから切断したい箇所をめがけて噴射するため、火花が飛ぶことなく安全に施工できるからだ。

また、切断治具が機械化されているのでヒューマンエラーが起こりにくいというメリットもある。そのため全国でウォータージェット工法の需要が高まっているという。



工事にはウォータージェット工法を採用 ▶

山口県

観光マップ



ぶちうま!

山口 \ 絶 品 / の 味



ふぐ

山口県はフグで有名。特に下関市の唐戸市場は観光客も買い物を楽しめる。名物は毎週末と祝日に開催される屋台イベント。フグ汁が並ぶ海鮮屋台は目移りしてしまうほどだ。



岩国寿司

岩国市のご当地料理で、大きな木枠に当地の蓮根や季節の具材と酢飯を交互に何段も押し重ねた押し寿司。郷土料理100選に選ばれているほど有名だ。



瓦そば

山口県の名物料理で、熱々の瓦の上に茶そばを乗せ、錦糸卵や甘辛く煮た牛肉などの具材を盛り付けた料理。温かい濃い目のつゆにつけて頂く。



ばりそば

山口県の名級グルメで、焼いた麺に野菜たっぷりの具と鶏ガラスープがかかっている麺料理。食べるときにバリバリと音がする名前の由来。

写真提供：山口県観光連盟、岩国市観光振興課